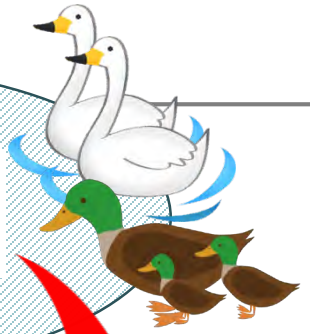
今シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生状況について

令和３年６月
農林水産省

今シーズンの世界的な発生状況

今シーズンは**2020年夏にシベリアで検出されているH5N8亜型ウイルス**がユーラシア大陸の東西で猛威を振るい、フランス（492件）や韓国（109件）を始め、各地で続発。

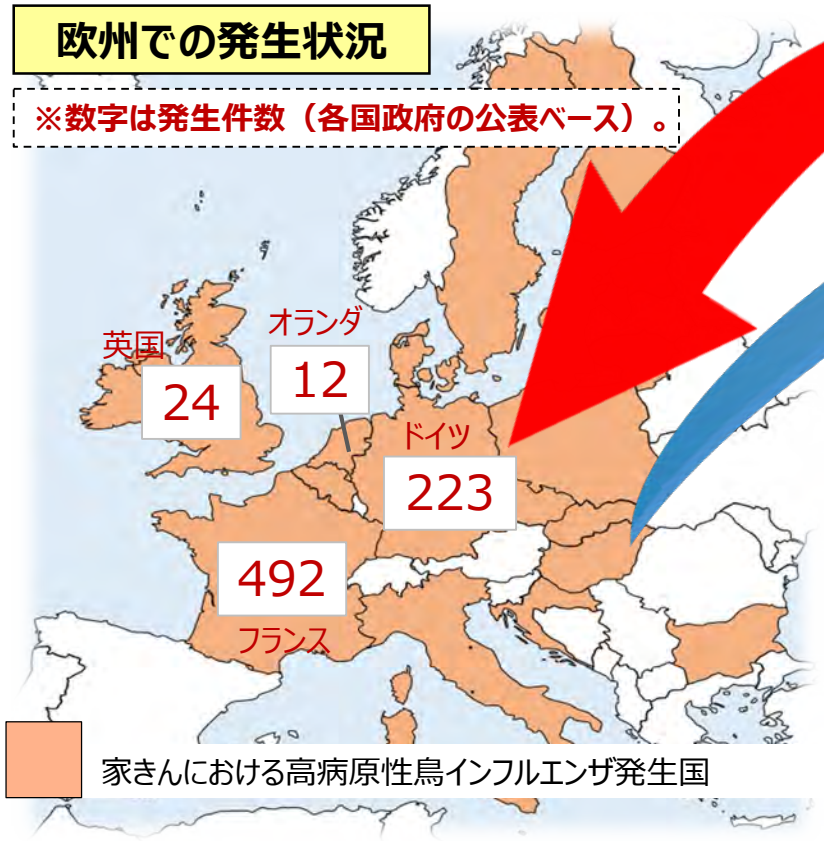
※ 西欧、日本、韓国ともに昨シーズンは非発生。



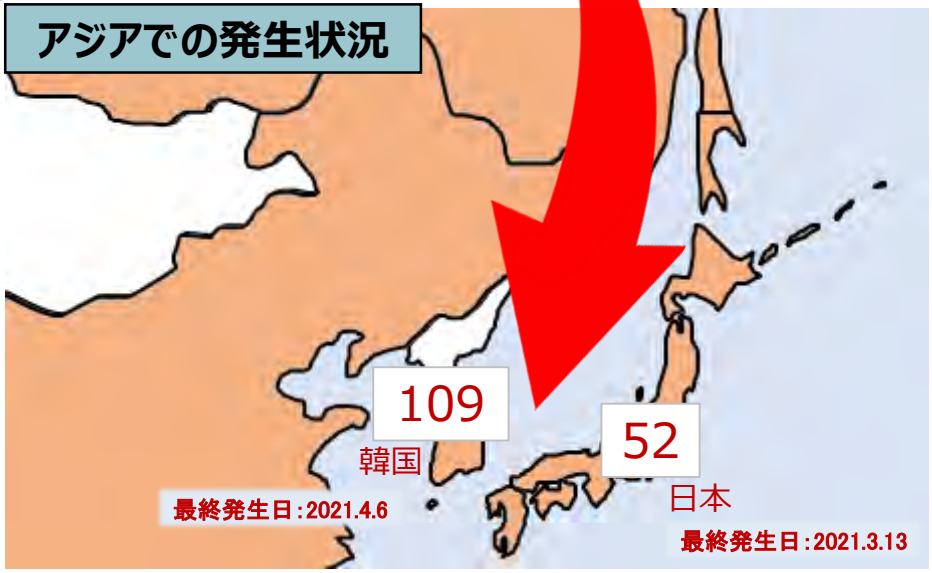
シベリア営巣地
H5N8

欧州での発生状況

※数字は発生件数（各国政府の公表ベース）。



アジアでの発生状況



H5N8亜型発生国（欧州） ※日付はH5N8亜型の最終発生日

英国	2021.3.21	デンマーク	2020.12.31	フィンランド	2021.2.8
ドイツ	2021.4.15	ポーランド	2021.3.22	イタリア	2021.2.19
オランダ	2021.2.19	アイルランド	2020.12.9	エストニア	2021.3.22
フランス	2021.4.23	ハンガリー	2021.2.1	ウクライナ	2021.2.26
スウェーデン	2021.4.19	リトアニア	2021.1.8		
クロアチア	2020.11.17	チェコ	2021.4.6		

※ 韓国では、あひる農場での発生が多い。
あひるは発症するまでに比較的長時間を要し、
その間にウイルスが排出されることが想定されることから、
予防的殺処分を実施。

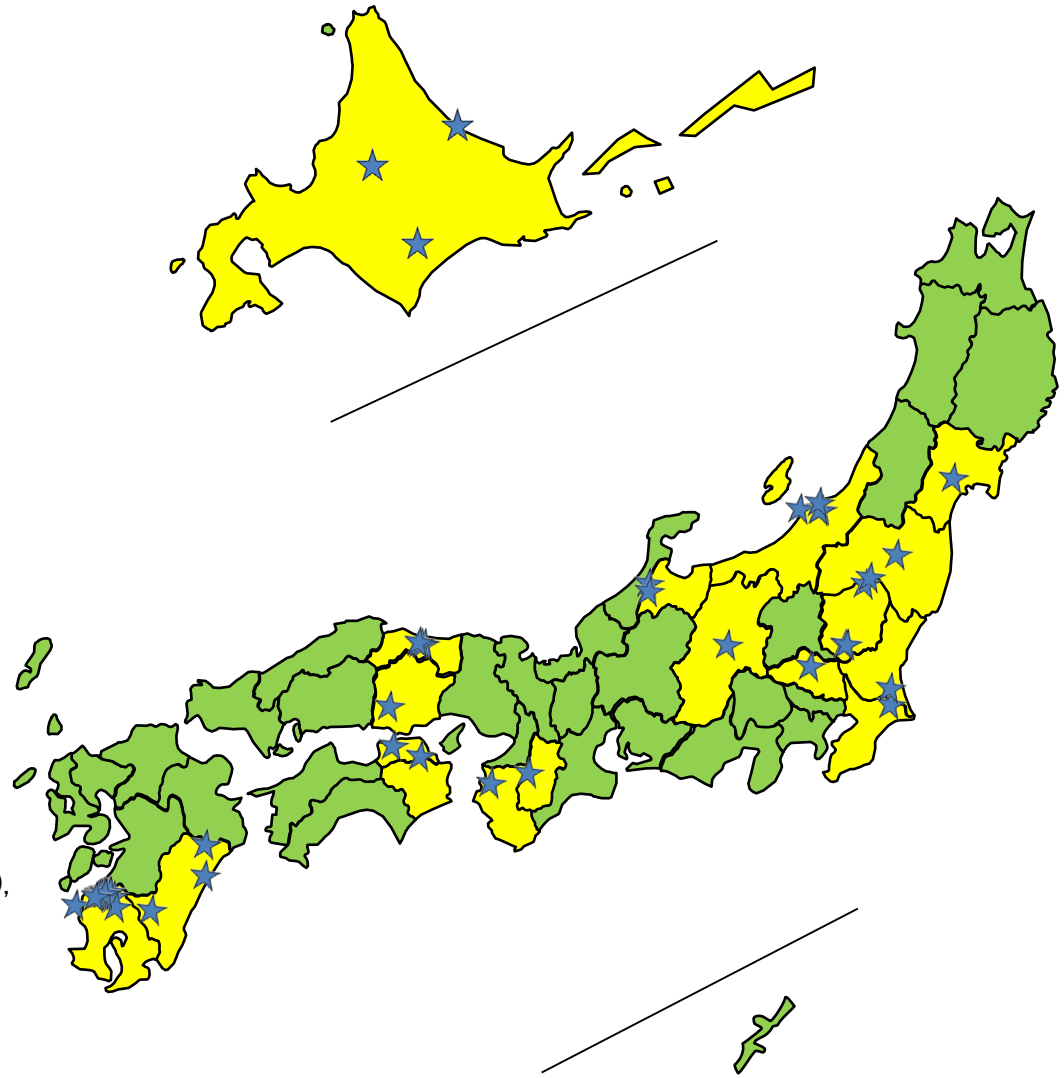
※ 中国及び台湾では、ウイルスが常在しており、
夏季を含めて年中発生。

国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況（野鳥）

野鳥　18道県58事例(H5N8)

（月/日)は回収日

北海道　糞便(10/24)・ハヤブサ(1/18)・オジロワシ(1/27),
宮城県　オオハクチョウ(2/5),
福島県　オオハクチョウ(1/29),
茨城県　コブハクチョウ(2/1),
栃木県　ハヤブサ(2/15)・フクロウ(2/16)・
　　オオハクチョウ(2/14)・ノスリ(3/3),
埼玉県　フクロウ(12/23),
千葉県　糞便(2/4),
新潟県　環境試料(水)(11/16)・糞便(11/16)・マガモ(2/8)・
　　オオハクチョウ(2/13),
富山県　ノスリ(2/17,24),
長野県　環境試料(2/14),
奈良県　オオタカ(12/20),
和歌山県　オシドリ(12/3),
鳥取県　糞便(12/7,21)・環境試料(水)(12/9),
岡山県　ハヤブサ(12/4),
徳島県　マガモ(1/29),
香川県　ノスリ(12/8),
宮崎県　糞便(11/30,30)・オナガガモ(1/6)・マガモ(1/24,24),
鹿児島県　ナベヅル(12/18,1/19,2/3,5,5)・オシドリ(12/22)・
　　マガモ(1/16)・ノスリ(2/1)・マナヅル(2/5)・
　　糞便(11/5)・
　　環境試料(水)(11/9,16,23,30,12/7,7,14,14,21,21,
　1/8,11,11,22,25,2/1)



国内における高病原性鳥インフルエンザの発生状況（家きん）[2020.11.5–2021.3.14]

今シーズンの高病原性鳥インフルエンザは
18県52事例の発生
殺処分羽数は**約987万羽**

※　殺処分羽数は過去最大
※　これまでのシーズン最大殺処分羽数は約183万羽

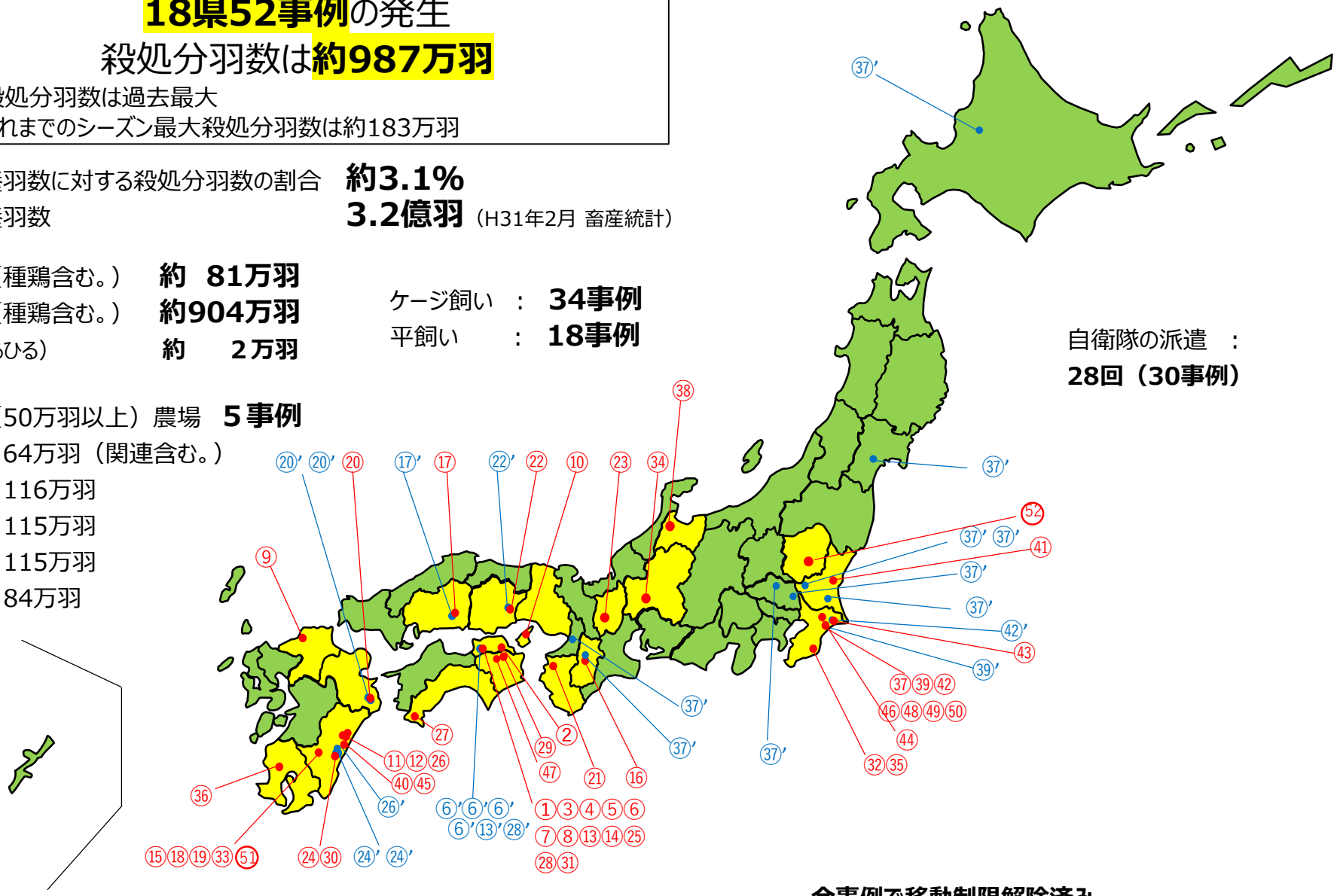
国内飼養羽数に対する殺処分羽数の割合　**約3.1%**
国内飼養羽数　**3.2億羽**（H31年2月 畜産統計）

肉用鶏（種鶏含む。）　**約　81万羽**
採卵鶏（種鶏含む。）　**約904万羽**
その他（あひる）　**約　2万羽**

大規模（50万羽以上）農場　**５事例**
- 岡山　64万羽（関連含む。）
- 千葉① 116万羽
- 千葉② 115万羽
- 千葉⑦ 115万羽
- 茨城　84万羽

ケージ飼い　：　**34事例**
平飼い　：　**18事例**

自衛隊の派遣　：
28回（30事例）



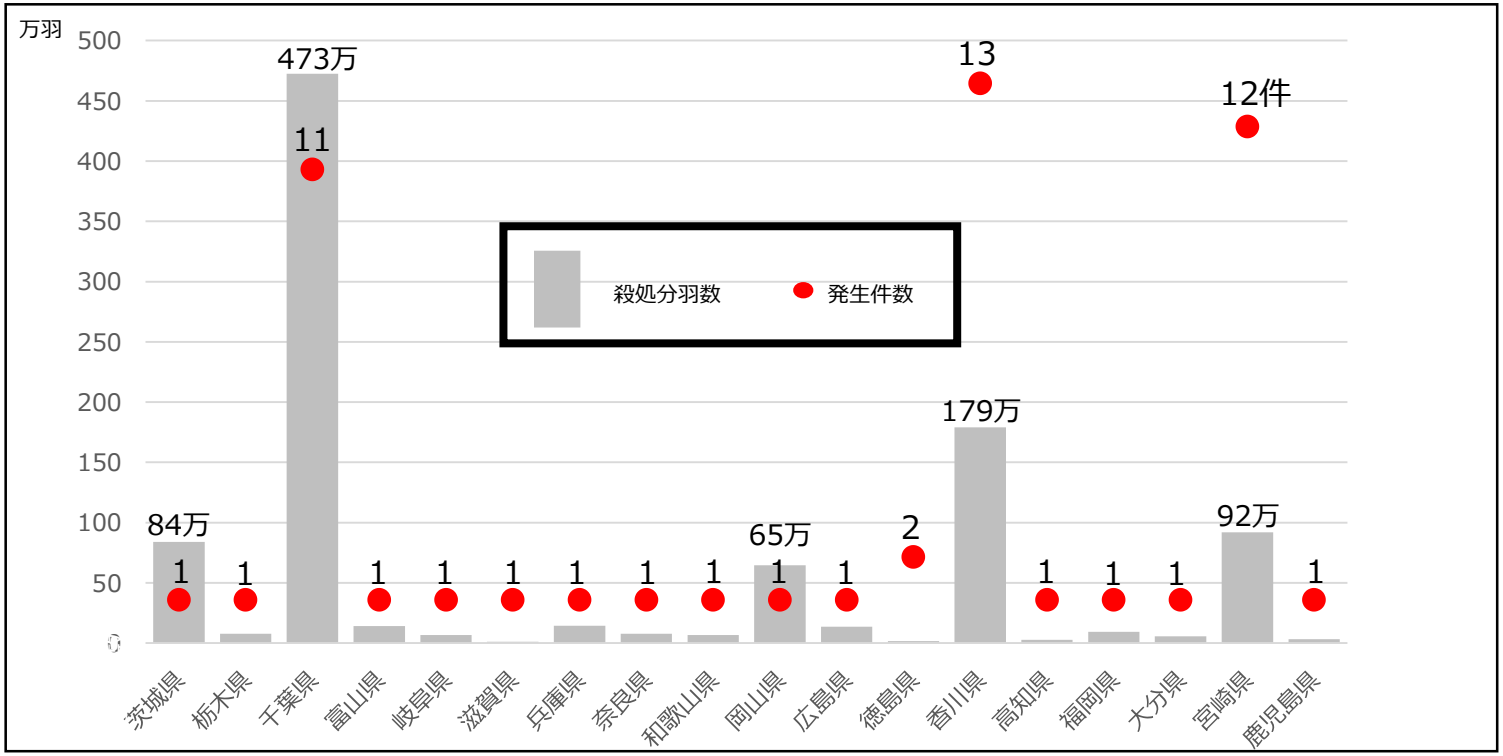
全事例で移動制限解除済み

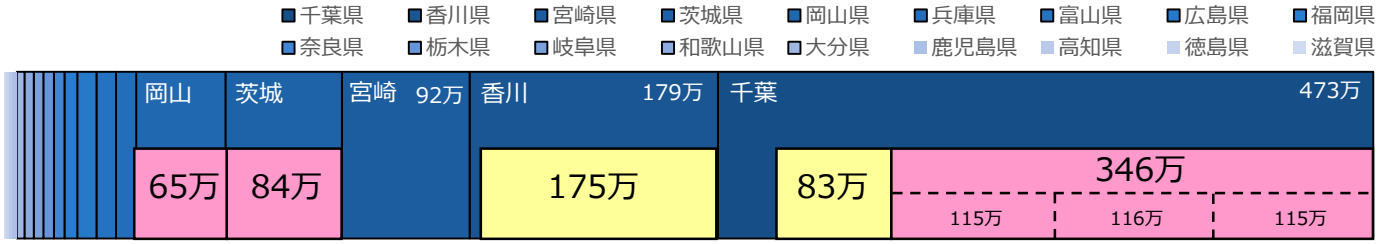
発生状況データ

○ 全52事例のうち**36事例（69%）**、殺処分羽数987万羽のうち**744万羽（75%）**が、**千葉県、香川県、宮崎県の3県での発生による**もの。

○ 殺処分羽数987万羽のうち**495万羽（50%）**が**大規模農場**（50万羽超）での発生によるものであり、**258万羽（26%）**が**密集多発型**（半径３km圏内での続発）の発生によるもの。

発生県	事例数	殺処分数（関連農場の殺処分数は、発生農場所在県に計上）
茨城県	1	84万羽
栃木県	1	7.7万羽
千葉県	11	473万羽
富山県	1	14.1万羽
岐阜県	1	6.8万羽
滋賀県	1	1.0万羽
兵庫県	1	14.5万羽
奈良県	1	7.7万羽
和歌山県	1	6.8万羽
岡山県	1	64.5万羽
広島県	1	13.7万羽
徳島県	2	1.6万羽
香川県	13	179.1万羽
高知県	1	2.7万羽
福岡県	1	9.2万羽
大分県	1	5.6万羽
宮崎県	12	92.1万羽
鹿児島県	1	3.2万羽
合計	52	987万羽





計：987万羽

大規模（50万羽超）
→ 495万羽（50.2%）

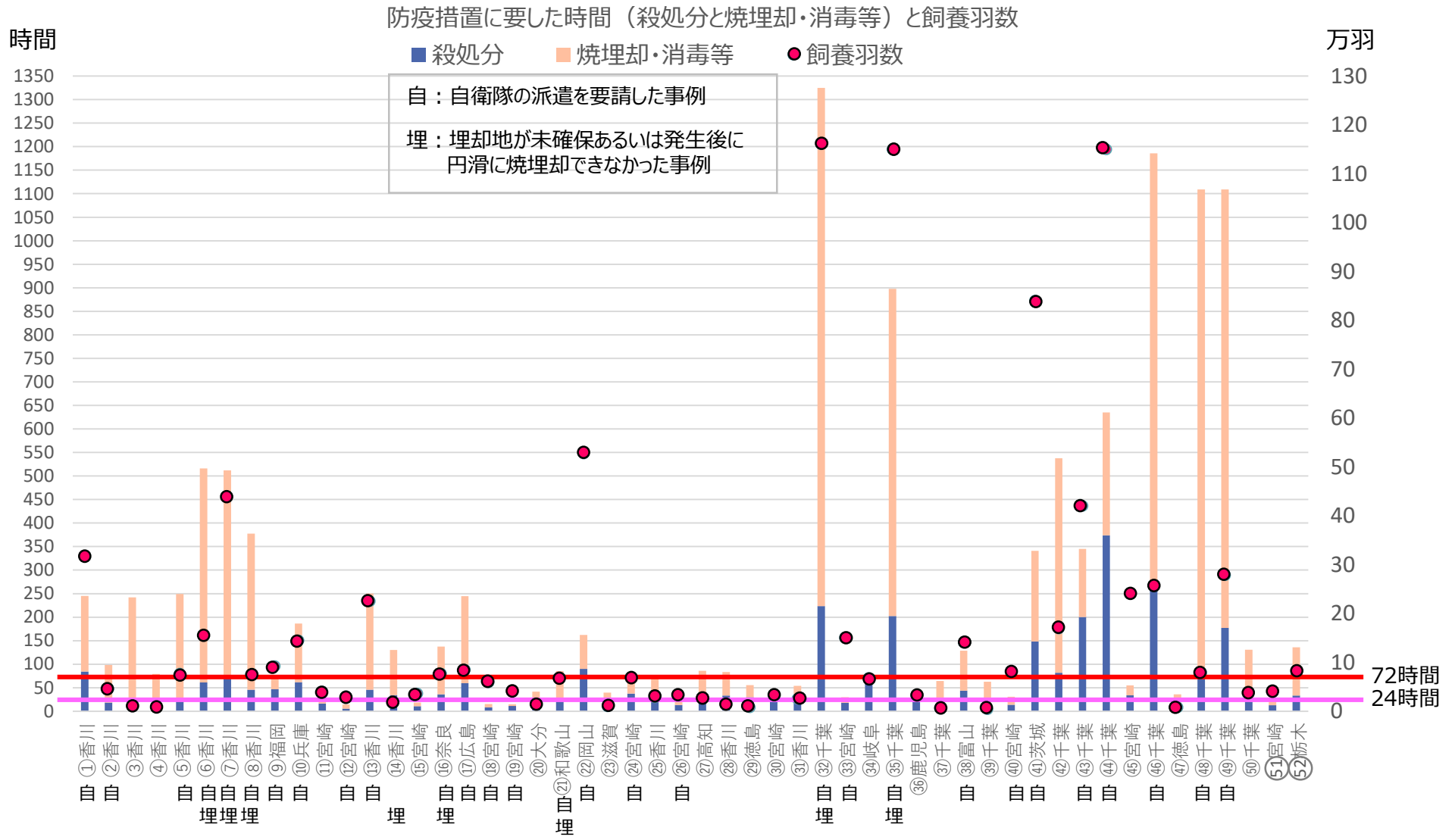
密集多発(半径３km圏)
→ 258万羽（26.1%）

防疫措置データ

万が一の発生時には、**農場での早期封じ込め、まん延防止**を徹底することが必要。
【目安】**殺処分：24時間以内**（防疫指針第７の１の（４））
焼埋却：72時間以内（防疫指針第７の２の（１））

（採卵鶏（ケージ飼い）３～６万羽
肉用鶏（平飼い）　５～10万羽を想定）

自衛隊は28回の派遣要請に応じて殺処分に協力。
まん延防止に大きく貢献。



国際的な連携による対応

【課題】

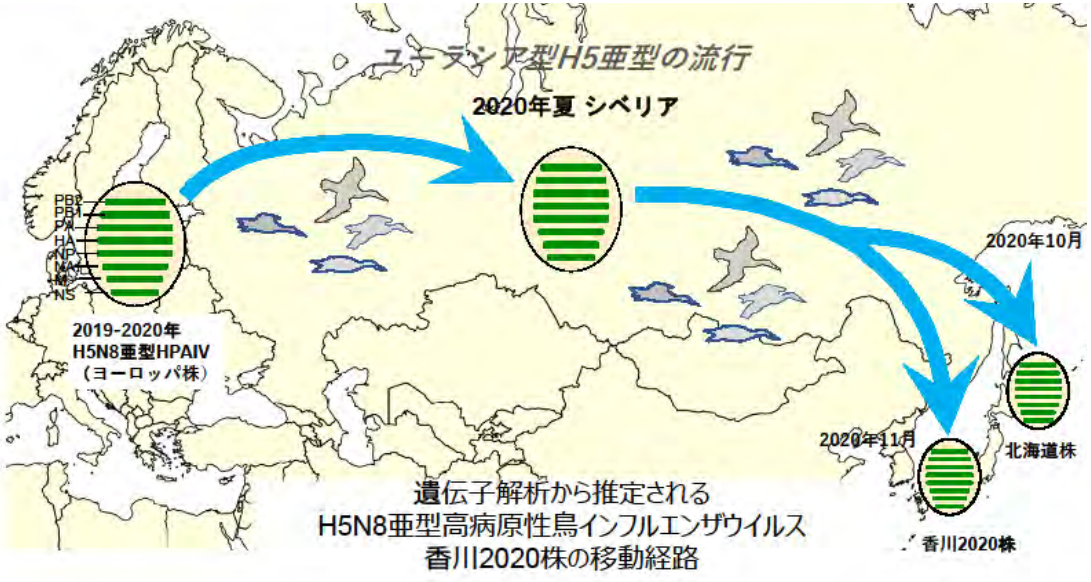
◎　今シーズンは2020年夏にシベリアで検出されているH5N8亜型ウイルスがユーラシア大陸の東西で猛威を振るい、各地で大きな被害をもたらした。

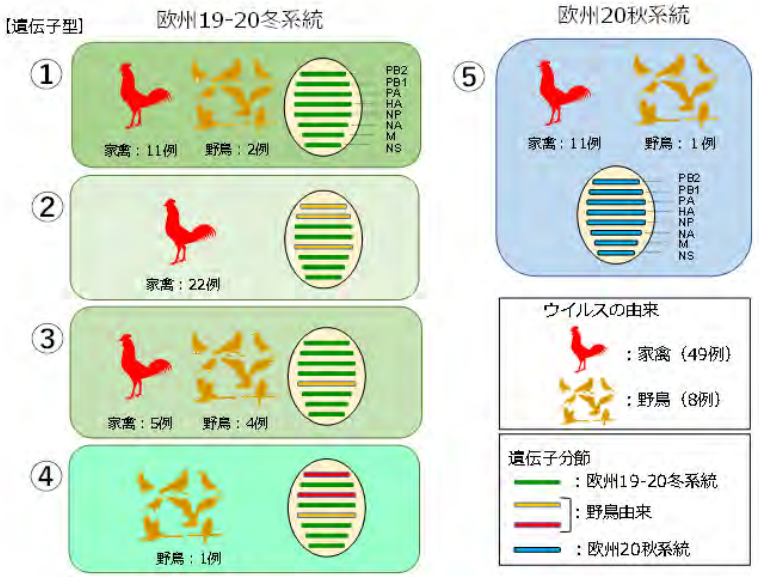
◎　鳥インフルエンザは、野鳥を介し、国境を越えて発生するため、各国ごとの対応ではなく、国際的な連携による対応が必要。

【対応】

◎　各国との更なる連携

日本と同様のHPAIを経験した国の獣医当局との技術的な情報交換（「**鳥インフルエンザ防疫に関する技術対話**」）と連携を主導（今年度の発生の分析、発生リスクに基づく次シーズンに向けた警鐘、飼養衛生管理強化等のとるべき対策の共有、研究連携等を促進）





引用：農研機構プレスリリース（研究成果）大陸を渡ったＨ５Ｎ８亜型高病原性鳥インフルエンザウイルス 2020/11/25

引用：農研機構プレスリリース（研究成果）今季国内の高病原性鳥インフルエンザウイルスの遺伝的多様性　2021/3/10

高病原性鳥インフルエンザ発生農場における疫学調査結果を踏まえた飼養衛生管理状況

衛生管理区域出入口			鶏舎出入口		野生動物対策	
基準13	基準14	基準15	基準20	基準21	基準24	基準26
手指消毒・手袋交換が不十分	衣服・長靴の交換不十分	車両の消毒不十分	手指消毒・手袋交換が不十分	長靴の交換不十分	防鳥ネットの不備	壁・天井の隙間
4/52	9/52	5/52	28/52	19/52	16/52	●：40/52 ▲： 9/52

注）1．●は、飼養衛生管理基準を遵守しているとは言えない事例。
2．▲は、隙間や破損はないが、ネズミのものと思われる糞、足跡、囓り跡などの痕跡はあった事例。

飼養衛生管理基準の遵守徹底のための全国一斉点検

- 高病原性鳥インフルエンザの発生を踏まえて、昨年12月に全国の養鶏場に対して、飼養衛生管理基準の遵守状況の一斉自主点検を実施。
- 鶏100羽以上を飼養する農場では、１回目の自主点検では１割程度の不遵守が確認されていたが、都道府県が指導した結果、５回目まで自主点検を重ねた結果、遵守率はいずれも99%以上までに上昇。

※　防鳥ネットや消毒機器の整備等への**支援の活用を促進**し、**遵守率100%への改善を目指す**とともに、
必要に応じて、家畜伝染病予防法に基づき、知事による**指導・助言・勧告・命令**、**命令違反者の公表の規定の活用を指導・指示**。

中規模層・大規模層（100羽以上）

項目 ＜報告農場数＞	１回目 ＜6,595＞	２回目 ＜7,614＞	３回目 ＜7,614＞	４回目 ＜7,613＞	５回目 ＜7,613＞
13（手指消毒）	93%	97%	99%	99%＜	99.9%＜ （残り６戸）
14（衣類・長靴）	89%	96%	98%	99%＜	99.9%＜ （残り６戸）
15（車両消毒）	88%	97%	98%	99%＜	99.8%＜ （残り11戸）
20（手指消毒）	90%	96%	98%	99%＜	99.8%＜ （残り13戸）
21（長靴）	88%	94%	97%	99%＜	99.7%＜ （残り20戸）
24（野生動物対策）	90%	96%	98%	99%＜	99.7%＜ （残り17戸）
26（ねずみ・害虫）	96%	98%	99%	99%＜	99.9%＜ （残り７戸）

＜５回目の点検において遵守率が100%未満であった県：６県（宮城県、群馬県、山梨県、兵庫県、和歌山県、香川県）＞